

大川小学校第三者検証委員会に対しての期待と不安

大川小学校遺族
今野 浩行

この第三者検証委員会の検証結果が今後の学校防災の道筋となり、今後二度と、学校管理下において大川小学校のような悲劇が生まれることのないことを願って、また、真に学校は安全で安心な場所となり、今後起こりうる震災に備え地域の防災の拠点となるべく、その検証結果に大いに期待する立場より、遺族の一人として意見を述べさせていただきます。

正直、期待をしていると言うより、震災から2年という月日が立ち、未だに多くの先生と子供たちが犠牲となった大川小学校の事故の真相が、何一つとして明らかとなっていない現時点では、検証委員会の検証結果に期待せざるを得ないというのが本音であります。

さて、今後の検証委員会の検証で明らかになると思いますが、大川小学校で起きた学校管理下に於いては歴史上例を見ない大惨事に関しての、調査・検証の主幹であるべき、石巻市や石巻市教委の対応や検証の内容は、遺族の意思に反して、誰一人として納得のいくものではありませんでした。

絶対に安全であると信頼していた学校管理下で、自分の命より大切な子供を失い失意のどん底で嘆き苦しむ遺族に対して、謝罪どころか“自然災害における宿命”と遺族の思いを全く無視し、傷口に塩を塗るような常識では考えられない発言をした、石巻市行政のトップである亀山市長。

純粋に“山に逃げよう”と訴えていた子供の発言をなかった事にしようとするなどの事実の隠ぺい工作や、聞き取りメモを意図的に廃棄したり、聞き取りの内容や報告会の議事録を都合のいいように書き換えるなどの文書や情報の改ざん行為などなど、この場では言い尽くせないほどの不誠実な対応を続ける石巻市教委。

更に、震災後子供たちの捜索にも参加せず、現場の指揮を執ることもしなかった、組織のトップとしての責任のかけらも感じられない。都合の悪い質問に及ぶと“忘れました”とまるで台本でもあるかのような回答しか得られず、とうてい納得のできるものではありませんでした。

特に、責任問題に発展しそうな質問や項目に関しては、その傾向が顕著に表れているように感じます。察するに、震災発生後の早い段階で“未曾有の大震災で仕方がない”“学校やそれを管轄する石巻市や石巻市教委には責任は一切ない”と結論づけその筋書きを書いた。それを正当化するために、事実の隠ぺい工作や文書や情報の改ざんを繰り返してきたと疑わざるを得ません。それに加え、説明会の打ち切り発言や、市教委の担当者の人事異動や、唯一、現場から生還した教諭の説明会参加を拒否し続けるなど、これまでの対応は、そう結論付けるのが自然な事ばかりです。

第三者検証委員会は、法的には何の効力も持たず、権限のない組織であることから、当事者が事実を隠ぺいしうその証言をしたり、口を閉ざしたりすれば真実が闇に葬られる可能性が懸念されます。改ざんされた公文書を鵜呑みにしたために間違った結論が出る可能性もあります。

この震災で行方不明者を含み84名が犠牲となりました。色々と事実が明らかになっていく過程の中で、その命は救えた命と考えます。学校管理下で多くの命が奪われ、誰も悪くない、だれも責任をとらないでは常識的に考え、とても納得できるものではありません。

検証結果の最終報告は、平成25年の12月となっており、時間も限られています。間違った結論は第2の大川小学校を生むことになりかねません。責任の追及も含め、文科省の強いリーダーシップと万全のフォローを是非お願い致します。個人的意見ですが、義家政務官の第三者検証委員会への参画を希望いたします。

以上